

私のお気に入り

白鷗大学女子短期大学部助教授

岩 城 淳 子

私には本を読んだり、ものを考えたりするのに好きな場所がいくつかある。

じっくり読み返したい本がある時、小さな魔法瓶に熱い濃いコーヒーを入れて近くの土手に行く。そこは西の空に高層ビル群が、下にはテニスのクレーコートが見える。みんなよりワンテンポ遅れて球を追うプレーヤーに学生時代の自分を重ねて、心の中で頑張れといいながら丸太を横倒しにしただけのベンチで本を読む。ほっとする香りの中で読んでいると、この文章を紡ぐために振り落とされたであろう言葉達がふとよみがえってくる。それがかみしめていると、足の指が痒いことに気づく。夏の終わりの蚊だ。帰り道には教会があって、掲示板には「本物は伝わる、響く、輝く。だから本物に出会いたい。」と書いてある。「たしかに…」とあまり効かなかった虫除けスプレーを片手に妙に納得する。

院生の頃よく通った大学の図書館へは自転車で行く。都内は思いのほか坂が多い。坂が多い街ほどお年寄りが長生きで元気だと聞いたことがある。心なしか酒屋、米屋、和菓子

屋が多いような気がする。それは私にとってもうれしい街である。自転車を降りないで到着できるかどうかは私の脚力のバロメーターである。今日も大丈夫、だが実はかなりきつい。やっと着いた建物にはなんともいえない雰囲気がある。鬱蒼と繁る木々に囲まれた池と武道場を渡ってくる風が、奥の書庫に吹き込む。そこはまさに宝の山である。貴重な資料が多いことはもちろん、たまに私の拙いささやかな疑問と先人の研究の出発点とが重なり合うのを確かめられたりすると、時空を越えた密かな喜びが湧いてくる。人が真理に向かって頭や手を動かしている姿は美しく、普遍的なものには強さがある。

漠然とした想いが山ほどあるのにうまく整理整頓できない時、車でジャズを流しながら

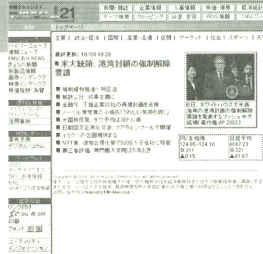


河原に行く。下にはゴルフコースが見える。体から余計な力が抜けるとああいう気持ちのいいスイングができるんだなあと感じながら、未来の自分を重ねてクッキーなどボリボリかじりながら石段でボーッとする。そういえばこの頃は読みたいからではなくて、書くために読まなくてはならない本ばかり読んでいたと思う。たいていうまくいかないことにはそれなりの理由があるが、なぜかうまくいくことには説明のつかない偶然があるように思う。確信できることは心の底に沈めて、水面を滑る風に身を委ねて自然体でいると、突如として私にも新解釈が降ってきたりする。案外、偶然は必然なのかもしれないと思ってみたりする。どんな現実になるかはよきにはからえ

と広い空に預けて、私はただ目の前の瞬間を大事にしたい。そしていつの日かほのかに輝けたらいいと思う。

本を読む、それは著者と対話することと同時に自分と対峙することでもある。人にはもう一度読みたい本、もう一度逢いたい人、もう一度見つめ直したい自分がある。自分の中に心から心地いいと思える“お気に入り”がいくつかあると、心に風が通り抜ける隙間ができたような気がする。するとふっと感じるものに敏感になれて、本当は自分はこうしたいんだという呟きに前より少し耳を傾けることが出来るようになる。だから私は好きなこと、人、場所、ひとときがあることに感謝して、それをすぐく大切にしたいと思っている。

日経テレコン21・日経BP記事検索サービス

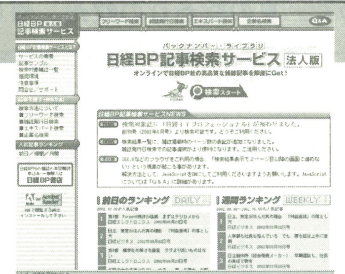


日経テレコン 21 (日経四紙新聞検索)

日経テレコン 21 はさまざまな価値ある情報を必要に合わせて簡単操作で的確に入手することができ、あらゆるビジネスシーンを支援する国内最大級のデータベースサービスです。

日経 BP 記事検索サービス (雑誌記事検索)

日経 BP 社が発行する専門情報誌 28 誌のバックナンバー記事をオンラインでダウンロード・閲覧できるサービスです。多様な検索方法で、膨大な情報の中から、読みたい記事や欲しい情報を、すぐに手軽に探し出せます。



アクセス
方法

アドレス <http://www.hakuoh.ac.jp/> → 図書館 → オンラインデータベース
※ 学外からはアクセスできません。

大学の3つのL (エル)

白鷗大学経営学部教授

柳 川 高 行

大学にまつわる伝説 (legend) や逸話 (anecdote) は数多いが、私の大好きな逸話に大学には3つのエルで始まることばで示されるものが必要不可欠だというものがある。

3つのLとは学問をする自由を表す Liberty と、トイレを表す Lavatory、そして図書館を表す Library であるが、Library について私には、深い感謝の気持ちとともに思い出すいくつかの懐かしい思い出がある。

福島大学の学生時代の私の大学での居場所は図書館であった。父が社長に辞表を叩き付け半失業状態にあったので私は、家庭教師のアルバイトを4軒掛け持ちし、学費を稼がなくてはならず、好きな本も自由に買うことができず、大学図書館で本を貧り読んだ。大学院でご指導を仰ぎたいと考えていた藻利重隆先生のご著書も『経営学の基礎』以外は、全て図書館から借り出して読んだ。

一橋大学での大学院生時代の思い出の多くも図書館と切り離すことができない。私は今も母校のことが大好きで、そこで学んだことを心から誇りにしているが、その大きな理由のひとつが、本を探す私に図書館の人々 (ライブラリアン) が示してくれた温かい親切であった。地方から上京しお金が無くて困りながらも必死に勉強していた私に対し、年配の方も若い女性の図書館員の方も学生を大切にしようという溢れる親切心を持って接して下さった。あのライブラリアンの方々は、その

仕事を愛し誇りにし、本が好きで、学生が好きなプロフェッショナルだったのだなと今振り返ってそう思う。

1977年に白鷗女子短期大学に助手として奉職した私の居場所はここでもまた図書館であった。事務局の中に専用の机があり、1980年に女子では日本で初めての経営科が開設されるまで研究室は頂けなかったので、授業の準備は全て事務局勤務が終わった夕食後図書館にこもって行なった。大学のご厚意で図書館のカギをお借りしていたので、9時閉館後、図書館は私1人の図書館となった。夜間部の授業も含めて最大12コマ英語を担当した私は来る日も来る日も図書館で12時過ぎまで教案を書き学生からの質問に答えるために夢中になって本を読んだ。その為図書館にあった『英語教育』と『英語青年』のバックナンバーは殆ど全て目を通し、ほんの少しだけ英語の力が身についた。その当時から学生の質問は全て受けて立つことを私の教育方針としていたが、それを貫けたのも図書館という空間の存在と蔵書の存在が大きい。私は「図書館の子」と言えるかもしれない。私はこれまで文字通り実に大量の教案を図書館で書いてきたし、これからも書いていくだろう。

白鷗に学ぶ学生諸君、諸嬢にとっても図書館が卒業後も懐かしさとともに思い出そうひとつの居場所となるといいなと図書館好きの私は思っている。



新着図書 ピックアップ

007.63/EK	「超図解 Excel 2002 for Windows」 エクスメディア著 エクスメディア	Y8/KO/1	「食事で気になる子の指導」 「現代と保育」編集部／編 ひとなる書房
070.4/SA	「社説の大研究」 産経新聞論説委員室編著 産経新聞ニュースサービス	384.5/SA	「昔遊び図鑑」 坂本卓男著 東京書籍
146.8/HI	「箱庭療法の世界」 東山絃久著 誠信書房	443.9/DA	「宇宙 最後の3分間」 草思社
290.13/SE	「風景の事典」 千田稔、前田良一、内田忠賢編 古今書院	460.4/HI	「春の数えかた」 日高敏隆著 新潮社
♥—————♥		▲—————▲	
311.2/KA	「貴族の徳、商業の精神」 川出良枝著 東京大学出版会	498.7/NI	「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著、安藤格、一色玄監修 光生館
320.4/IN	「現代生活と法」 井上秀典ほか著 北樹出版	598.2/KA	「妻の妊娠中夫が考えていること」 兼坂頼介著 情報センター出版局
323.14/SU	「3日でわかる日本の憲法」 鋤本豊博、中島広樹監修 ダイアモンド社	678.4/OG	「貿易実務のABC」 小倉良知著 成山堂書店
327.8/IN	「少年法のあらたな展開」 猪瀬慎一郎、森田明、佐伯仁志編 有斐閣	689.21/UR	「観光地の成り立ち」 浦達雄著 古今書院
♥—————♥		▲—————▲	
335.5/TA	「海外進出の企業戦略」 高倉信昭著 財経詳報社	721.8/KI	「江戸の遠近法」 岸文和著 勁草書房
K4/HA	「soho ベンチャーの戦略モデル」 原田 他 中央経済社	E/DU	「おばけパーティ」 ジャック・デュケノワ作 ほるぷ出版
KS/SHI	「中学・高校教師になるための教育心理学」 心理科学研究会編 有斐閣	809.4/SA	「声に出して読みたい日本語」 齊藤孝著 草思社
368.6/JI	「明治・大正・昭和・平成事件・犯罪大事典」 事件・犯罪研究会、村野薫編 東京法経学院出版	936/PE	「"It (それ)" と呼ばれた子」 デイヴ・ペルザー著 青山出版社

ささやき

図書館では、ビデオ・DVDの鑑賞や、パソコンを使っ
ての新聞記事検索や判例検索、有価証券報告書閲覧、英会
話学習など様々なソフトが用意されています。簡単な手続
で利用できますので、一度使ってみてください。

平成14年10月25日 発行
編集 図書館だより編集委員会
発行 白鷗大学総合図書館
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
(0285)22-9737 (直通)
ホームページ <http://www.hakuoh.ac.jp>
印刷 株尚文堂印刷所